

対談

社会福祉法人  
吹田市社会福祉協議会会長

立川 浩次さん

吹田市職員労働組合執行委員長

有田 八郎さん

# 少子高齢化 福祉や 教育予算大幅カット！

## 社会福祉協議会

## 地域福祉・健康を守る砦として奮闘

### 予算削減の中で何ができるか

有田 今回は吹田市社会福祉協議会会長の立川浩次さんをゲストにお招きしました。今の日本は国も地方も財政難の中でかつてない少子高齢化社会を迎えています。特に小泉内閣の時に「痛みを伴う改革」が叫ばれ、福祉や教育の分野で予算が大幅にカットされてきました。厳しい状況の中で市民生活・福祉をどう守っていくのか。社会福祉協議会（以下「社協」と略）の役割はますます重大になってきますね。

### 社協は民間の社会福祉法人で構成員は市民

立川 そうですね、社協の名前は「すいぶん」と知られてきたのですが、実際にどんな活動をしているのか、については、まだまだご存知でない市民がたくさんいらっしゃると思います。社協は、そもそも社会福祉法に定められた団体で、「市町村に一つ以上置くこと」と決められています。「社協も吹田市の出先機関の一つ」と考えておられる方も多いと思うのですが、社協は民間の社会

福祉法人で、構成員は市民なのです。私個人は藤白台地域から選出された理事で、理事の中から互選で選ばれて、会長に就任しております。社協というと「あの赤い羽根募金を集める団体ね」というくらい認識がもたれませんが、しかし実際には吹田市内に33もの地区福祉委員会があり、そこでは「小地域ネットワーク事業」として、高齢者への昼食会や子育てサロン、子どもと高齢者が昔遊びや給食交流会を通じてふれあう世代間交流、障がい者交流など、様々な活動が続けています。

有田 7月にJR吹田駅前で開催された「平和の塔祈念献花式典」でも立川さんは実行委員長を務められましたし、ボランティアフェスティバルでも社協は事務局で奮闘されていますね。

立川 昨年度で見ますと、社協が関わる事業に参加された吹田市民はのべで約72000人、地区福祉委員としてボランティアに参加された方はのべで約16000人。吹田市の人口が



隔月に開かれている高齢者ふれあい昼食会「もくせい会」

を保険にしているのか？」。保険料の負担はばかになりませんし、利用料もアップしていく。これまで一生懸命働いて日本経済を支えてきた高齢者に、冷たすぎるのではないかと感じます。さらには年老いた妻が夫を介護するといったような「老・老介護」も深刻な問題を投げかけています。

### ニュータウンは高齢化が進んだ地域

立川 吹田市は他市に比べるとまだ高齢化していませんが、私の住んでいる藤白台などニュータウンは例外でして、高齢化が進んだ地域です。昨年度吹田市全体の高齢化率は18.6%だったのですが、ニュータウンに限れば23.6%。それが17年には34%になると予想されています。JR吹田駅周辺の「旧吹田地域」とニュータウンの高齢化が顕著です。特に今、力を入れて取り組んでいるのは、「孤独死をなくそう」という事業です。実際に高齢者の孤独死は増えて

いて、中には死後20日も発見されなかった例もあります。有田 そうですね。特に都市部では地域コミュニティがうまく育たなかったり、プライバシー保護が進みすぎてどこに独居老人がいるかわからなかったり、そんな中で高齢者をどうやって地域で見守っていくかが、問われていますね。

### 市職員が戸口までゴミ収集

### 高齢者の安否確認

有田 今は民生委員さん

### 市民5人に1人が社協と関係

や福祉委員さんが独居老人を見守ってられますが、こういう分野こそ行政の役割も大きいと思います。府内6カ所に設置される健康・福祉センターや地域包括支援センター。市の直営で、専門職を配置している福祉センターですが、このセンターの役割は大きいと思います。また、ゴミ収集。独居老人や障がい者の方に、あらかじめ登録いただいてゴミを玄関まで取りに行く「ふれあい収集」。

立川 浩次さん

有田 八郎さん